

奥武蔵

457

奥武蔵研究会

2024年(令和6年)7月



「武甲山の大杉」

市瀬ふみ氏

奥武蔵の山事情

小泉 重光

奥武蔵や秩父も初夏を迎え、山歩きにも熱中症対策を考慮しなければならぬ頃となりました。とはいえ、新型コロナウイルス感染症で不自由な時期があった事を思えば、工夫しだいで対処できるようなったのではないのでしょうか。個人的な山行について言及すれば、山岳保険の他にもコンビニにて1日レジャー保険に加入する事ができるようになっていますので、安全コストを視野に入れながら自由に山歩きを楽しんでいただけるようお願いいたします。

奥武蔵や秩父では、昨今のキャンプブームにより身近な山が切り開かれて、新たなキャンプ場として見かけることも増えました。地主さん達も山を遊ばせておくより、収入が増えれば良いといったところでしょうか。少し前に流行った山や田畑を買収して太陽光パネルを設置して、転売目的で土地を開発といった事業に比べれば、いたって健全といえるかも知れません。ただ、長年にわたり林業で生計を立てていた人や、里山に暮らす家々を目の当たりにしてきた身からすると、世情の流れとはいえどこか寂しい気がします。

過疎化した里山では放置された山や家屋も少なくありませんが、奥武蔵の丘陵地帯では、都会から比較的に近いこともあって、近頃では多種多様な土地利用がなされているようです。2輪・4輪のオフロード車が違法に山道へと進入してしまうのは過去のこと、今や地主さん自らがそうした人たちと賃貸契約をしよう時代となりました。古くは堂平山のバラグライダー用地、直近の山行ではドローンの林間練習場として利用されているケースも美見しました。ですが、多様な使われ方をしてのを見て思うことは、果たして元の姿に戻るのかしらということ。人々の暮らしと調和していた美しい奥武蔵の風景はもう望むべくもありません。しかしながら、無意味に積まれたケルンや重複している指導標を見るにつけ、自らが自然破壊をしてはいないか、点検する意識を持ちたいと思うのです。

目次 第457号 令和6年7月

奥武蔵の山事情 小泉 重光 表2

鐘撞堂山点描 その四 野口 実 1

—— 山頂のごほうび ——

明治期の越生の景勝と六萬部隊（上） 町田 尚夫 5

—— 日和田山からスカリ山 岡野 守 9

鐘撞堂山からカタクリ群生地へ 吉田 美知子 9

雨乞山から児玉千本桜 高橋 澄夫 10

報告 4月の集会山行「渡来人の里を歩く」 村木 悦子 11

行 釜戸山から多峯主山 大川 満代 12

山 堂平山、山菜山行 大川 満代 13

雷電山調査山行 小泉 重光 13

—— 武蔵嵐山 杉山城址 岡野 守 15

山行計画 16 会務報告 18

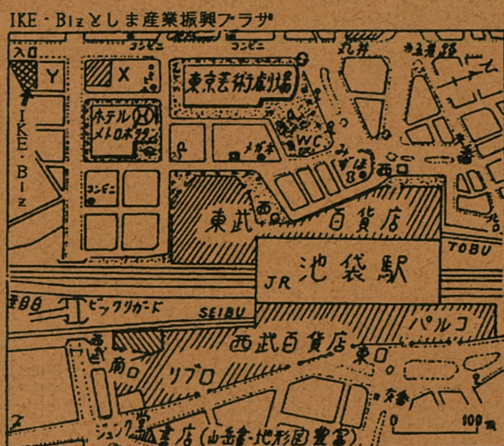
集会案内 17 新入会員のお知らせ 19

◇4月集会については、3612回山行報告をご覧下さい。

◎委員会のお知らせ

8月の委員会は、8月2日(金) PM 6時30分。会場は池袋IKE Bizにて開催します。

9月の委員会は日程調整中ですが、PM 6時30分より池袋IKE Bizにて開催します。参加される方は村木までご連絡ください。



◎表紙について

今月号の表紙は、市瀬ふみさんのスケッチより「武甲山の大杉」を掲載させて頂きます。どうもありがとうございました。

◎新しく入会しました

- ・川口市にお住いの馬場節子さん
 - ・練馬区にお住いの矢ヶ崎郁雄さん
 - ・行田市にお住いの本田雄一さん
 - ・さいたま市にお住いの本村貴子さん
 - ・深谷市にお住いの三木友子さん
- どうぞよろしく願ひ致します。

◎お詫びと訂正

456号に一部誤りがありました。お詫びして訂正いたします。

- 1頁 中段 県立坂戸高校→県立坂戸西高校
 - 2頁 下段 新田義貞義貞→新田義貞
 - 4頁 上段 国際大学前→東京国際大学前
 - 4頁 上段 日高教育委員会→日高市教育委員会
- 4頁 中段 坂戸氏→坂戸市

◎編集部からのお願い

原稿はかならず2000字詰め、4000字原稿用紙に縦書きでお願いします。行の始まりは1字下げ、1行は20字で、山行報告文は4000字詰め原稿用紙にて4枚以内、また考察・随筆などは10枚までとさせて頂きます。

尚、パソコンで入力し紙原稿で送って下さい。尚、作業が煩雑になってしまふ為、デジタ

ル文書の場合は原稿用紙設定としないうち、お願い致します。

本年度から会報発行月が1月、4月、7月、10月となりましたので、原稿締め切りは前々月の20日迄となります。1月号は11月20日、4月号は2月20日、7月号は5月20日、10月号は8月20日です。必ず厳守される様お願い致します。原稿が届かない場合は、次号順延となる事もありますので予めご了承願ひます。パソコンにて原稿を複製された方は原稿とともにEメールにてデジタル原稿を編集部もしくはヌーベル社宛(nouvelle@iab.itkeeper.jp)に送信していただけると助かります。尚、原稿・写真等につきましては、現在返却しておりません。原稿を返却希望の場合は予め編集部までご一報ください。

奥武蔵 第457号
令和6年6月20日発行

発行者	小泉重光
発行所	奥武蔵研究会
〒175-0092	東京都板橋区赤塚7-18-7
編集者	小泉重光
	加藤恒彦
	成川茂雄
印刷所	株ヌーベル社